



Netfinity Director

クイックガイド



Netfinity Director

クイックガイド

本マニュアルに関するご意見や感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原 典：	CT69KNA Netfinity Director Quick Beginnings
発 行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31

AP事業所

IBM World Trade Asia Corporation

Intellectual Property Law & Licensing

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

N. Castle Drive

Armonk, NY 10504-1785

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

商標

Alert on LAN、IBM、IntelliStation、Netfinity、Netfinity Manager、Netfinity Director、ThinkPad、および Wake on LAN は IBM Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、WIN32、および Windows のロゴは、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Java および Java に基づくすべての商標とロゴは、Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Intel、Pentium、および LANDesk は米国およびその他における Intel Corporation の商標です。

他の会社名、製品名、またはサービス名などはそれぞれの各社の商標または登録商標です。

目次

iii

Netfinity Director クイックガイド	1
作業を始める前に.....	1
コンポーネント別のサポートされるシステム.....	1
ハードウェア要件.....	3
Workgroup/Enterprise Integration.....	3
Netfinity Director 2.12 のインストール手順.....	4
サーバー・ファイルのインストール.....	5
Netfinity Director コンソールのインストール.....	16
Netfinity Director 用の UM Services クライアントのインストール.....	17
Workgroup/Enterprise Integration のインストール.....	20
Netfinity Director 2.11 から バージョン 2.12 へのアップグレード....	21
Netfinity Director サーバー.....	21
Netfinity Director コンソールのアップグレード.....	22
Netfinity Director クライアントのアップグレード.....	22
サポートされるオペレーティング・システム上への UM Services ク ライアントのインストール.....	25
サポートされるオペレーティング・システム.....	25
Netfinity Director クライアント (OS/2 版) のインストール.....	26
Netfinity Director クライアント (OS/2 版) の不在インストール	28
Netfinity Director クライアント (Netware 版) のインストール...	29
Netfinity Director クライアント (SCO UnixWare 版) のインスト ール.....	30
Netfinity Director のアンインストール.....	30
索引	33

1

Netfinity Director クイックガイド

「Netfinity Director クイックガイド」では、サポートされるオペレーティング・システム上での Netfinity Director 管理サーバー、コンソール、および UM Services クライアント（またはその両方）をインストールするためのインストール・プロセスを順に説明します。

作業を始める前に

UM Services をクライアントまたはサーバーへインストールする前に、以下の事項を考慮してください。

- コンポーネント別のサポートされるシステム
- ハードウェア要件
- Workgroup/Enterprise Integration

コンポーネント別のサポートされるシステム

Netfinity Director 管理サーバー は、すべての Netfinity Director コンポーネントをインストールしますが、次のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Windows NT Server 4.0 (Service Pack 4 以上)
- Windows 2000 -- Server または Advanced Server

Netfinity Director コンソール・コンポーネントは、次のものを含め、Netfinity Director 管理サーバーと同じオペレーティング・システムをサポートします。

-
- Windows 2000 Professional
 - Windows NT Workstation 4 (Service Pack 4 以上)
 - Windows 98
 - Windows 95 (OEM Service Release 2 (OSR2) 以上)

UM Services クライアント・コンポーネントは、次のオペレーティング・システムでサポートされます。

- Windows 2000 -- Server または Advanced Server
- Windows 2000 Professional
- Windows NT Server 4.0 (Service Pack 4 以上)
- Windows NT Workstation 4 (Service Pack 4 以上)
- Windows 98
- Windows 95 (OEM Service Release 2 (OSR2) 以上)

注: UM Services クライアント・コンポーネントは、メインのインストール・プログラムにより、上記に挙げたオペレーティング・システムへインストールされます。UM Services クライアントは、この他に、以下のオペレーティング・システムでもサポートされます。これらについては、25ページの『サポートされるオペレーティング・システム上への UM Services クライアントのインストール』を参照してください。

- OS/2 4.0 (SP5)
- OS/2 Warp Server for e-business
- Novell NetWare 4.x (SP5 あるいはそれ以降)
- Novell NetWare 5.x
- SCO UnixWare 7.1 あるいはそれ以降

ハードウェア要件

Netfinity Director 管理サーバーおよびコンソールには、次のハードウェア、メモリー、およびディスク容量が必要です。

- Pentium クラス・プロセッサ、300 MHz 以上
- RAM 64 MB
- 仮想記憶 348 MB
- 空きディスク・スペース 300 MB
- TCP/IP プロトコルをサポートするネットワーク・アダプター。(管理コンソールと管理サーバーの間での通信が必要です。) このアダプターは、管理する UMS システムとの通信にどのプロトコルが必要であるかによって、NetBIOS、IPX、または SNA もサポートする必要があります。

Windows オペレーティング・システム内の Netfinity Director 用の UM Services クライアントには、次のハードウェア、メモリー、およびディスク容量が必要です。

- IBM Netfinity Server、IBM Desktop、IBM IntelliStation、または IBM ThinkPad。

注: UM Service クライアント・システムは、SMBIOS バージョン 2.0 以上をサポートする必要があります。

- Intel Pentium 200 MHz 以上のプロセッサ。
- クライアント・システム上に 75 MB の空きディスク・スペース。
- 最小限 32 MB の RAM (ランダム・アクセス・メモリー)。

Workgroup/Enterprise Integration

Netfinity Director がインストールされていると、UM Services を、サポートされるシステム管理コンソール・アプリケーションのための統合システム管理ソリューションとしてインストールすることができます。統合に適切な環境については、

Netfinity Director with UM Services CD-ROM に含まれている *UM Services* インストールおよびユーザーズ・ガイド に記載されています。

Netfinity Director 2.12 のインストール手順

Netfinity Director コンポーネント (サポートされる Microsoft Windows オペレーティング・システム用のサーバー、コンソール、およびクライアント) をインストールするには、次のステップで行います。

1. インストールしようとするマシンの CD-ROM ドライブに *Netfinity Director with UM Services* CD-ROM 挿入します。
2. 「スタート」→「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
3. 「名前:」フィールドに、**X:¥win32¥install¥lbmsetup.exe** と入力します。

X は CD-ROM ドライブの場所です。

4. 「よろこそ」ウィンドウをクリックして、ライセンス契約を受諾します。
「コンポーネントの選択」ウィンドウがオープンします。



「コンポーネントの選択」ウィンドウには、4 つのインストール選択項目があります。

サーバー

サーバー、コンソール、およびクライアントのファイルをインストールします。

コンソール

Netfinity Director サーバーのリモート・ユーザー・インターフェースをインストールします。

クライアント

Microsoft オペレーティング・システムへのみクライアント・ファイルをインストールします。管理下にあるその他のオペレーティング・システム環境用については、25ページの『サポートされるオペレーティング・システム上への UM Services クライアントのインストール』を参照してください。

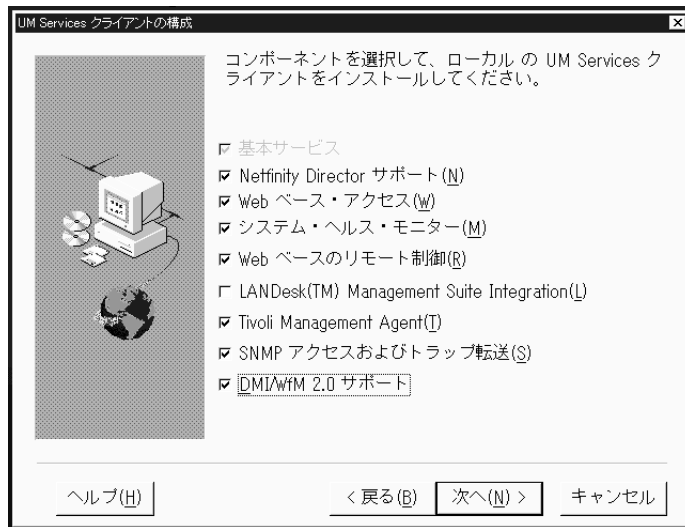
Workgroup/Enterprise Integration

管理環境の UM Services Integration をインストールします。詳しい情報については、*UM Services* インストールおよびユーザーズ・ガイド を参照してください。

サーバー・ファイルのインストール

「コンポーネントの選択」ウィンドウから「サーバー」を選択すると、サーバー、クライアント、およびコンソールのファイルをインストールします。次のステップを実行してください。

1. 「コンポーネントの選択」ウィンドウから「サーバー」ボタンをクリックします。
「UM Services クライアントの構成」ウィンドウがオープンします。



クライアント・システムにインストールしたい任意のコンポーネントの横のチェック・ボックスにチェックを付けます。

注: デフォルトで、リストの最初のコンポーネントの「基本サービス」が選択されており、選択解除はできません。基本サービスは、Java Virtual Machine (VM)、Common Information Model (CIM)リポジトリ、およびハードウェア・インベントリ・データを収集するための基本的なツールをインストールします。基本サービスが提供するインベントリ情報は、Microsoft WBEMTEST などの CIM ブラウザーで表示できます。基本サービスは、すべての Netfinity Director 管理下にある UM Services クライアントにインストールする必要があります。

次のオプション・コンポーネントが提供されています。デフォルトで選択されているコンポーネントには、その旨が示されています。

Web ベース・アクセス (デフォルト)

Web ベース・アクセスは、クライアント・システムを管理し、CIM ベースのインベントリー・データを表示するための、使いやすい Java ベース・ツールを提供します。Web ベース・アクセスをインストールすると、HyperText Transport Protocol (HTTP) デーモンがインストールされ、インストール時にはユーザー名とパスワードを入力しなければなりません。ユーザー名とパスワードは、HTTP デーモンへのアクセスを制限するために使用します。クライアント・システムにインストールされている Web ベース・アクセスを使用すると、サポートされている Web ブラウザーを搭載しているコンピューターであれば、どのリモート・コンピューターからでもクライアントを管理できます。リモート・システムに必要なソフトウェアは、Web ブラウザーだけです。

システム・ヘルス・モニター (デフォルト)

システム・ヘルス・モニターは、使用可能ディスク・スペース、SMART ドライブ・アラート、システムの温度、ファンの機能、電源機構の電圧、システム・カバー取り外しの状態などの、重大なシステム機能のアクティブ・モニターを行います (選択された、管理下にあるシステムのハードウェア・オプションによって異なります)。システム・ヘルス・モニターを使用すると、システム障害が発生する前に、システムの問題を早期に検出できます。システム管理者は、CIM イベント、SNMP トラップ (SNMP トラップは、SNMP アクセスとトラップ転送も選択されている場合にのみ使用可能です)、または SMS ステータス・メッセージ (Microsoft SMS 2.0 のみ) によってシステム問題の通知を受けます。重大な問題が起こった場合には、この他にクライアント・システムのディスプレイにポップアップ・メッセージが表示されます。

Web ベースのリモート制御

Web ベースのリモート制御を使用すると、Web ブラウザーまたは MMC コンソールを使用するリモ

ート・システム管理者が、クライアント・システムのデスクトップを制御できるようになり、システム問題の診断とシステムのトラブルシューティングを実行する際の管理者の能力が拡大します。

注: Web ベースのリモート制御コンポーネントをインストールするには、Web ベース・アクセス・コンポーネントをインストールする必要があります。

LANDesk Management Suite Integration

LANDesk Management Suite Integration は、クライアント・システムに Intel コモン・ベース・エージェントをインストールします。これによって、システム管理者が、UM Services を LANDesk Management Suite と併用できます。

Tivoli Management Agent

Tivoli Management Agent は、クライアント・システムを Tivoli Enterprise システム管理プラットフォームによって管理できるようにするサポートを、そのクライアント・システムにインストールします。

SNMP アクセスおよびトラップ転送

この機能によって、Simple Network Management Protocol (SNMP) を使用するシステムから CIM 情報にアクセスできます。システム・ヘルス・モニターが使用可能な場合、このオプションは、CIM イベントを SNMP トラップとして転送するシステム・ヘルス・モニターも使用可能にします。このコンポーネントでは、エンドポイントに SNMP サービス (オペレーティング・システムによって提供されず) をインストールしている必要があります。

SNMP サービスがインストールされていない場合、システムは、オペレーティング・システム・インストール・メディアを挿入して、UM Services のインストール時に SNMP をインストールするようにプロンプトで指示します。

DMI サポート

このコンポーネントを選択すると、DMI (Desktop

Management Interface) 2.0 に準拠する Service Provider がインストールされます。この機能は、使用可能にされると、管理下にあるシステム CIM データおよびイベントを DMI にマップします。

2. インストールしたいコンポーネントを選択したら、「次へ」をクリックして、次に進みます。
これ以降のステップは、「UM Services クライアントの構成」メニューでの選択により異なります。
3. 「UM Services クライアントの構成」メニューで「DMI サポート」を選択した場合、「DMI プラットフォーム」ウィンドウがオープンします。



DMI サポートのインストール先にしたいプラットフォームの種類を選択します。「次へ」をクリックして、作業を続けます。

4. 「ユーザー ID」ウィンドウがオープンします。このウィンドウを使用して、クライアント・システムのユーザー ID とパスワードを設定し、クライアントにアクセスするのに使用する TCP/IP ポートを指定します。必ず、クライアント・システムの固有のユーザー ID とパスワードを指定してください。UM Services コンソールを使ってこのシステムを管理するには、最初に有効なユーザー ID とパスワードを指定しないと、システムにアクセスできません。「ユ

「ユーザー ID」フィールドにユーザー ID を入力します。その後で、「パスワード」フィールドにパスワードを入力し、「パスワードの確認」フィールドに再度パスワードを入力します。

注: ユーザー ID およびパスワードは大文字小文字の区別があります。

この後、UM Services コンソールにアクセスするのに使用する TCP/IP ポートを選択します。デフォルトのポートは 411 です。このポートが使用可能でない場合、ポート番号 6411、6500、6600、または 6611 が選択できます。選択したポートを他のアプリケーションが使用していないことを確認してください。「次へ」をクリックして、作業を続けます。

5. 「UM Services クライアントの構成」メニューから「**SNMPアクセスおよびトラップ転送**」を選択した場合、Netfinity Director は SNMP インストールの照会プロンプトを表示します。
 - SNMP ネットワーク・サービスをインストールせずに Netfinity Director のインストールを続ける場合は、「いいえ」をクリックします。
 - サーバーへ SNMP ネットワーク・サービスをインストールする場合は、「はい」をクリックします。「SNMP のインストール」ウィンドウと「ネットワーク」ウィンドウがオープンします。SNMP のインストール手順に従ってください。Windows オペレーティング・システムが再起動するようプロンプトを出してきたら、「いいえ」をクリックします。「SNMP のインストール」ウィンドウで、「次へ」をクリックして、Netfinity Director のインストール・プログラムに戻ります。
6. システムは、「スタート」メニューに Netfinity Director アイコンを追加したいか尋ねてきます。「スタート」メニューにアイコンを追加したいかどうかに応じて、「はい」または「いいえ」をクリックします。「サーバー・ライセンス・キー」ウィンドウがオープンします。



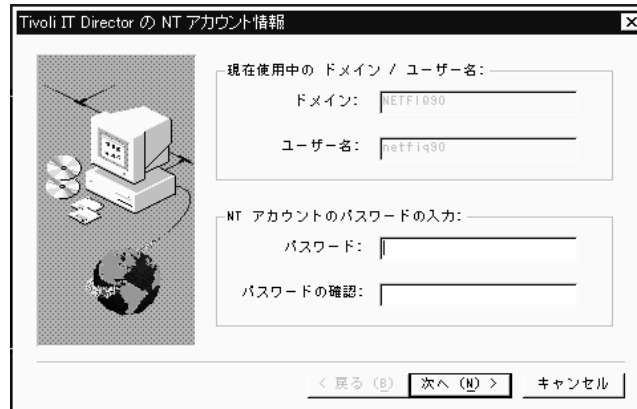
7. 提供されているライセンス・キーを入力します。ライセンス・キーには大文字小文字の区別はありません。
8. 「次へ」をクリックします。
Netfinity Director ファイルの場所の入力を求める「インストール先の選択」ウィンドウがオープンします。
9. 「次へ」をクリックして、デフォルト・ディレクトリー (C:¥Program Files¥IBM¥Director¥) を受け入れるか、「参照」をクリックして、別のディレクトリーを選択します。
「インストール先の選択」ウィンドウが再度オープンします。今回は、ソフトウェア配布パッケージ作成ディレクトリー用のディレクトリーを指定する必要があります。
10. 「次へ」をクリックしてデフォルトのディレクトリー (C:¥Program Files¥IBM¥Director¥SwDistPk) を受け入れるか、「参照」をクリックして別のディレクトリーを選択します。
ソフトウェア配布パッケージ・ディレクトリーを作成すると、もう一度「インストール先の選択」ウィンドウがオープンします。このディレクトリーは、このシステムにインストールされているソフトウェア配布パッケージの場所になります。

-
11. 「次へ」をクリックしてデフォルトのディレクトリー (C:\Program Files\IBM\Director\SwDistPk) を受け入れるか、「参照」をクリックして別のディレクトリーを選択します。
 12. システムは、リモート制御用のファイルをインストールしたいか尋ねてきます。「はい」または「いいえ」を選択します。
 13. システムは、TMR ゲートウェイ用のファイルをインストールしたいか尋ねてきます。「はい」または「いいえ」を選択します。
 - ネットワークに Tivoli 管理エージェント・ソフトウェアがインストールされている場合は、「はい」を選択します。エージェントが TMR ゲートウェイを通じて Netfinity Director を検出すると、Netfinity Director は、UM Services の Netfinity Director コンポーネントをダウンロードします。

注: このプロセスでは、完全な UM Services パッケージはインストールされません。このオプションを選択した場合、UM Services は別個にインストールする必要があります。

 - Netfinity Director と UM Services のインストール・プロセスを進めるには、「いいえ」を選択します。

システムが必要なファイルのインストールを開始します。すると、「アカウント情報」ウィンドウがオープンします。



使用しているマシンのドメインとユーザー名が表示されます。

14. 「パスワード」フィールドにアカウント・パスワードを入力し、「パスワードの確認」フィールドに再度そのパスワードを入力します。
15. 「次へ」をクリックして、作業を続けます。
「Director データベース構成」ウィンドウがオープンします。



16. インストール用の該当データベースの横のボタンを選択します。

デフォルト

デフォルト・データベースを作成します。このオプションはほとんどのユーザーにお勧めできます。

拡張 (MS SQL)

これを選択すると、MS SQL サーバー・データベースが作成されます。Microsoft SQL サーバー・データベースをインストールし、ネットワーク用に構成する必要があります。

拡張 (DB2)

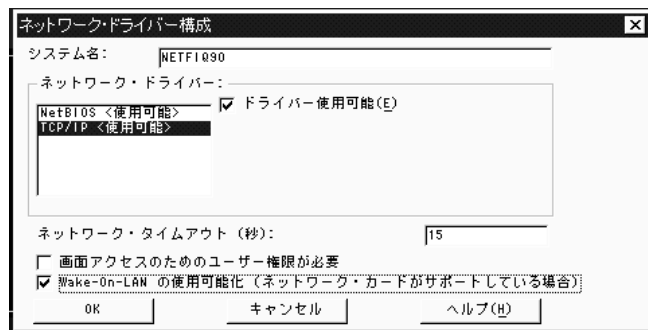
これを選択すると、DB2 データベースが作成されます。DB2 をインストールし、ネットワークで構成する必要があります。

カスタム

既存の IBM Netfinity Director データベースを選択してください。

注: すでにデータベースをインストールしている場合、そのシステムでそのデータベースが使用できます。

「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウがオープンします。



このウィンドウは、Netfinity Director サーバーのネットワーク・トランスポート・オプションを定義します。ここでのオプションは次のとおりです。

- システム名 - Netfinity Directorサーバーの名前。

- **ネットワーク・ドライバー** - このボックスには、システム・プロトコル・リストに定義されている全ネットワーク・トランスポート・プロトコルがリストされます。それぞれ「使用可能」または「使用不可」として表示されます。 Netfinity Director 用にネットワーク・トランスポートを使用可能にするには、ドライバー名をクリックし、「**ドライバー使用可能**」ボックスをクリックします。
 - **ネットワーク・アドレス (NetBIOS のみ)** - これは NetBIOS ネットワーク名です。
 - **ネットワーク・タイムアウト (秒)** - 15 秒がデフォルトのタイムアウトです。
 - **ウィンドウ・アクセスのためのユーザー権限が必要** - このボックスには、ユーザーがそのシステムへのリモート・アクセスを制御できるようにしたい場合にチェックします。
 - **Wake On LAN の使用可能化** - このボックスには、ネットワーク・カードが Wake On LAN をサポートする場合にチェックします。
17. 「**ネットワーク・ドライバー**」リストからドライバーを選択し、「**ドライバー使用可能**」チェック・ボックスにチェックして、該当のネットワーク・ドライバーを使用可能にします。
 18. 必要ならネットワーク・タイムアウトを変更できます。
 19. クライアント・ユーザーに対し、そのマシンへのシステム管理者によるリモート制御アクセスを拒否する権限を与えたい場合は、「**ウィンドウ・アクセスのためのユーザー権限が必要**」チェック・ボックスを選択します。このオプションにより、ユーザーは、自分のマシンにアクセスする人を制御することができます。
 20. サーバーに Wake On LAN 機能がある場合は、「**Wake On LAN の使用可能化**」チェック・ボックスを選択します。

-
21. 「OK」を選択して作業を続けます。インストールが完了すると、「セットアップの完了」ウィンドウがオープンします。
 22. 直ちにコンピュータを再起動するか、後で再起動します。「直ちにコンピュータを再起動します」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再起動します。「後でコンピュータを再起動します」を選択した場合、インストール・プログラムはクローズします。ただし、Netfinity Director の使用を開始するには、再起動して、システムにログインする必要があります。

Netfinity Director コンソールのインストール

「コンポーネントの選択」ウィンドウから「コンソール」ボタンを選択して、コンソール・ファイルだけをインストールします。次のステップを実行してください。

1. 「コンソール」を選択します。
「インストール先の選択」ウィンドウがオープンします。
2. 「次へ」をクリックして、デフォルト・ディレクトリー (C:¥Program Files¥IBM¥Director¥) を受け入れるか、「参照」をクリックして、別のディレクトリーを選択します。
システムに必要なファイルがインストールされます。「セットアップの完了」ウィンドウがオープンします。
3. 直ちにコンピュータを再起動するか、後で再起動します。「直ちにコンピュータを再起動する」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再起動します。「後でコンピュータを再起動する」を選択した場合、インストール・プログラムはクローズします。ただし、Netfinity Director の使用を開始するには、再起動して、システムにログインする必要があります。
4. 「終了」をクリックする。

Netfinity Director 用の UM Services クライアントのインストール

「コンポーネントの選択」ウィンドウから「クライアント」ボタンを選択して、クライアント・ファイルだけをインストールします。次のステップを実行してください。

1. 「クライアント」を選択します。

「UM Services クライアントの構成」ウィンドウがオープンします。



2. クライアント・システムにインストールしたい任意のコンポーネントの横のチェック・ボックスにチェックを付けます。Netfinity Director サポート以外のコンポーネントについてはすべて 5 ページの『サーバー・ファイルのインストール』で説明します。これらのコンポーネントの説明については、6 ~ 8 ページを参照してください。

Netfinity Director サポートは、クライアントのインストールの場合のみの追加構成オプションです。IBM Netfinity Director は、拡張 Intel プロセッサ・ベースのワークグループ・ハードウェア・マネージャーで、集中クライアントおよびグループ管理コンソールとサーバー・サービスを備えています。この機能を選択すると、システムに

Netfinity Director クライアントをインストールすることにより、Netfinity Director 環境でそのシステムを管理できるようになります。

3. 「次へ」をクリックして、作業を続けます。
「インストール先の選択」ウィンドウがオープンします。
4. 「次へ」をクリックしてデフォルトのディレクトリー (C:¥Program Files¥IBM¥UMS¥) を受け入れるか、「参照」をクリックして別のディレクトリーを選択します。
5. 「UM Services クライアントの構成」メニューで「DMI サポート」を選択した場合、「DMI プラットフォーム」ウィンドウがオープンします。



DMI サポートのインストール先にしたいプラットフォームの種類を選択します。「次へ」をクリックして、作業を続けます。

「ユーザー ID」ウィンドウがオープンします。

6. このウィンドウを使用して、クライアント・システムのユーザー ID とパスワードを設定し、クライアントにアクセスするのに使用する TCP/IP ポートを指定します。必ず、クライアント・システムの固有のユーザー ID とパスワードを指定してください。UM Services コンソールを使ってこのシステムを管理するには、最初に有効なユーザー ID とパスワードを指定しないと、システムにアクセスできま

せん。「ユーザー ID」フィールドにユーザー ID を入力します。その後、「パスワード」フィールドにパスワードを入力し、「パスワードの確認」フィールドに再度パスワードを入力します。

注: ユーザー ID およびパスワードは大文字小文字の区別があります。

この後、UM Services コンソールにアクセスするのに使用する TCP/IP ポートを選択します。デフォルトのポートは 411 です。このポートが使用可能でない場合、ポート番号 6411、6500、6600、または 6611 が選択できます。選択したポートを他のアプリケーションが使用していないことを確認してください。

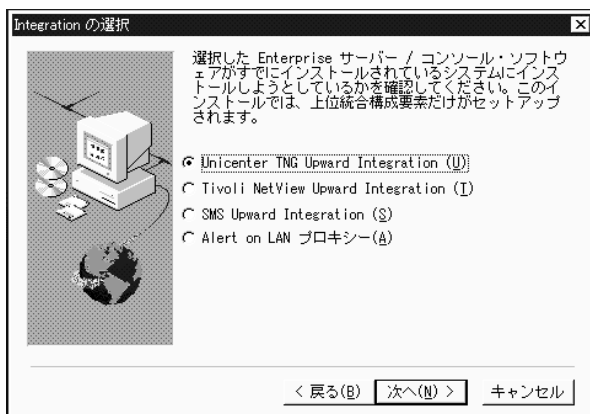
7. 「次へ」をクリックして、作業を続けます。
8. 「UM Services クライアントの構成」メニューから「**SNMPアクセスおよびトラップ転送**」を選択した場合、Netfinity Director は SNMP インストールの照会プロンプトを表示します。
 - SNMP ネットワーク・サービスをインストールせずに Netfinity Director のインストールを続ける場合は、「いいえ」をクリックします。
 - サーバーへ SNMP ネットワーク・サービスをインストールする場合は、「はい」をクリックします。「SNMP のインストール」ウィンドウとご使用の「ネットワーク」ウィンドウがオープンします。SNMP のインストール手順に従ってください。Windows オペレーティング・システムが再起動するようプロンプトを出してきたら、「いいえ」をクリックします。「SNMP のインストール」ウィンドウで、「次へ」をクリックして、Netfinity Director のインストール・プログラムに戻ります。
9. システムは、「スタート」メニューに UM Services アイコンを入れたいか尋ねてきます。「はい」または「いいえ」を選択します。

10. システムは、リモート制御用のファイルをインストールしたいか尋ねてきます。「はい」または「いいえ」を選択します。
11. システムは、リモート制御ウィンドウにアクセスするためのユーザー許可が必要かどうか尋ねてきます。「はい」または「いいえ」を選択します。

システムが必要なファイルのインストールを開始します。「セットアップの完了」ウィンドウがオープンします。
12. 直ちにコンピューターを再始動するか、後で再始動します。「直ちにコンピューターを再始動する」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再始動します。「後でコンピューターを再始動する」を選択した場合、インストール・プログラムはクローズします。ただし、Netfinity Director の使用を開始するには、再始動して、システムにログインする必要があります。

Workgroup/Enterprise Integration のインストール

「コンポーネントの選択」ウィンドウから「**Workgroup Enterprise Integration**」ボタンを選択して、管理環境に UM Services 統合をインストールします。「**Integration の選択**」ウィンドウがオープンします。



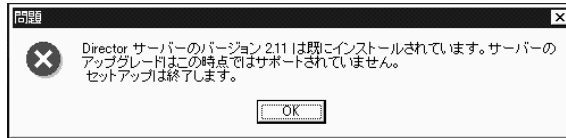
「Workgroup/Enterprise Integration」オプションについては、UM Services のインストールおよびユーザズ・ガイドの「Upward Integration Modules」の章を参照してください。

Netfinity Director 2.11 から バージョン 2.12 へのアップグレード

インストール・プログラムは、インストールのタイプに応じて、古いバージョンの Netfinity Director の有無を調べ、必要な Netfinity Director コンポーネントをアップグレードします。

Netfinity Director サーバー

このインストール・プログラムから Netfinity Director 管理サーバーをアップグレードすることはできません。「ようこそ」ウィンドウと「エンド・ユーザー・ライセンス同意書」ウィンドウの後で、インストールが古いバージョンの Netfinity Director 管理サーバーを検出し、このプロンプトが表示されます。



「OK」をクリックして、インストール・プログラムを終了します。新しいバージョンの Netfinity Director 管理サーバーをインストールする前に古いバージョンのものをアンインストールする必要があります。

注: IBM UM Server Extensions または Update Connector Manager がインストールされている場合は、最初にこれらのツールをアンインストールしてから、Netfinity Director 管理サーバーを除去します。これらの製品の除去については、*UM Server Extensions ユーザーズ・ガイド* および *Update Connector Manager ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

Netfinity Director バージョン 2.11 を除去するには、次のように行います。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「アプリケーションの追加と削除」の順にクリックします。次に、「Netfinity Director」を選択します。
2. システムは、Netfinity Director をクローズしないと続行できないことを示すメッセージを表示します。

3. システムは、構成データとデータベースの内容を削除したいかどうかを確認するメッセージを表示します。
アンインストール・プログラムが自動的に実行され、プロセスが終了するとプロンプトが表示されます。
4. 直ちにコンピューターを再始動するか、後で再始動します。
「直ちにコンピューターを再始動する」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再始動します。

Netfinity Director コンソールのアップグレード

「ようこそ」ウィンドウと「エンド・ユーザー・ライセンス同意書」ウィンドウの後で、インストールにより古いバージョンの Netfinity Director コンソールが検出され、このプロンプトが表示されます。



「はい」をクリックして、コンソールをアップグレードします。アップグレードは、前のインストール・パスをたどって、既存のソフトウェアをアップグレードし、古くなったファイルとディレクトリーを除去して、新しいコンソール・コンポーネントをインストールします。

直ちにコンピューターを再始動するか、後で再始動します。

「直ちにコンピューターを再始動する」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再始動します。「後でコンピューターを再始動する」を選択した場合、インストール・プログラムはクローズします。ただし、Netfinity Director の使用を開始するには、再始動して、システムにログインする必要があります。

Netfinity Director クライアントのアップグレード

選択したシステムについて Netfinity Director クライアントをアップグレードするためには、次のことを行います。

1. 「ようこそ」ウィンドウと「エンド・ユーザー・ライセンス同意書」ウィンドウの後で、インストールにより古いバージョン

ョンの Netfinity Director クライアントが検出され、このプロンプトが表示されます。



「はい」をクリックして、作業を始めます。

2. インストールにより、インストールされている古いバージョンの UM Services クライアントからのクライアント・コンポーネントが検出されます。「現行のインストール」ウィンドウがオープンします。



注: UM Services バージョン 2.11からインストールされた、次のコンポーネントは、このインストールではアップグレードされません。

- LANDesk Management Suite Integration
- Tivoli Management Agent

UM Services クライアント (バージョン 2.12) は、上記コンポーネントのより新しいバージョンのものを提供します。新しい方のバージョンをインストールするためには、最初に、古いバージョンの UM Services クライアントをアンインストールする必要があります。

インストールによりアップグレードされるのは、このウィンドウにリストされているクライアント・コンポーネントです。「次へ」をクリックして、作業を続けます。

3. 「アップグレードの追加コンポーネント」ウィンドウがオープンします。



UM Services クライアントのアップグレードされたコンポーネントに追加するコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして、作業を続けます。

4. 追加するコンポーネントに応じて、アップグレード・プログラムから、追加リソースを求めるプロンプトが出されます。これらのプロンプトについて詳しくは、17ページの『Netfinity Director 用の UM Services クライアントのインストール』を参照してください。
5. UM Services アイコンの追加を求めるプロンプトが表示されます。前のバージョンからのアイコンがある場合は、「いいえ」をクリックすると、それらのアイコンは除去されます。「はい」をクリックすると、以前にインストールされているアイコンに追加アイコンは追加されません。
6. これで、プログラムは既存のコンポーネントをアップグレードし、選択された新しいコンポーネントをインストールします。直ちにコンピュータを再始動するか、後で再始動します。「直ちにコンピュータを再始動する」を選択した場合、

システムはシャットダウンし、即時に再始動します。「**後でコンピュータを再始動する**」を選択した場合、インストール・プログラムはクローズします。ただし、Netfinity Director の使用を開始するには、再始動して、システムにログインする必要があります。

サポートされるオペレーティング・システム上への UM Services クライアントのインストール

高度に統合されたワークグループ・ハードウェア・マネージャーである Netfinity Director により、Netfinity Director クライアントを使用することにより、異種環境が管理できるようになります。

このクライアントは、Netfinity Director のインストールの一環として Microsoft Windows システムにインストールできます。Netfinity Director によって管理される OS/2、Netware、および SCO UnixWare システムの場合は、*Netfinity Director with UM Services* CD-ROM を直接使用して、このクライアントをインストールします。

サポートされるオペレーティング・システム

次のオペレーティング・システムおよびバージョンがサポートされています。

- OS/2 3.0 および 4.0 (Service Pack 5) および Warp Server for e-business
- NetWare 4.1 または NetWare 4.11 (Service Pack 5 以上付属)、NetWare 5.0 (Service Pack 1 以上)
- SCO UnixWare 7.1 (SCO UnixWare Patch ptf7441a) または SCO UnixWare 7.1.1
- Microsoft Windows 95、Windows 98、Windows NT 4.0 (Workstation または Server)、および Windows 2000 Professional および Server

Netfinity Director クライアント (OS/2 版) のインストール

OS/2 3.0、4.0、または Warp Server for e-business システムに Netfinity Director クライアント・ソフトウェアをインストールするには、次のようにします。

1. *Netfinity Director with UM Services* CD-ROM をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ディレクトリーを **x:¥os2**サブディレクトリーに変更します。この場合、x: は CD-ROM ドライブのドライブ名です。
3. **setup.cmd** を実行して、インストール・ユーティリティーを始動する。
4. Netfinity Director クライアント・ファイルのデフォルトの場所が、「インストール先ディレクトリー」フィールドに表示されます。このファイルを別の場所に移動していなければ、単純にそのデフォルトを受け入れてください。移動している場合は、クライアント・ファイルが置かれているドライブ名とファイル・パス位置を入力します。選択されたディレクトリーに、自動的にサブディレクトリー **¥SwPklInst** が作成されます。システム上のそのサブディレクトリーに、ソフトウェア配布パッケージがインストールのために置かれます。
5. クライアント・ファイルのデフォルトの宛先位置は **c:¥TivoliWg¥** です。別の場所にそのファイルをインストールしたい場合は、デフォルトのドライブとファイル・パスを代わりの場所と置き換えてください。
6. ローカル・システムのデスクトップをリモート・ロケーションから制御できるようにしたい場合は、「リモート制御クライアント」オプションを選択します。詳しくは、「Tivoli IT Director」セクションの「リモート制御」を参照してください。
7. 「インストール」を選択します。ファイルは指定されたディレクトリーにコピーされます。「取消」を選択すると、いつでもインストールを取り消すことができます。

8. この後、「ネットワーク・ドライバー構成」ダイアログが表示されます。システムの名前を「システム名」フィールドに入力します。Netfinity Director の管理者は、この名前を使用して、ネットワーク上でこのシステムを識別します。
9. 管理下のシステムが Netfinity Director 管理サーバーと通信するために使用する、使用可能ネットワーク・ドライバーのうちの 1 つをクリックします。「NetBIOS」を選択すると、デフォルトのネットワーク・アドレスが割り当てられます。このアドレスは変更できますが、指定する名前は、必ず長さを 1 ～ 12 文字にし、ネットワーク上で固有の名前でなければなりません。そうでないと、管理下のシステムが正しく始動できません。このアドレスは大文字小文字の区別があります。
10. 「ドライバー使用可能」を選択して、システム始動時にネットワーク・ドライバーをアクティブにします。使用可能ネットワーク・ドライバーがシステムに複数ある場合、この時点で別のドライバーが選択でき、このダイアログのステップを繰り返してください。
11. 「ネットワーク・タイムアウト」値は、システムが応答しない場合に、Netfinity Director 管理サーバーがこのシステムとの通信の確立を試みる秒数を指定します。デフォルト設定を変更しなくてもかまいません。
12. 「ウィンドウ・アクセスのためのユーザー権限が必要」オプションでは、リモート・ユーザーがローカル・ユーザーの許可なしで、ローカル・システムにアクセスし、制御できるかどうかを指定できます。このオプションが使用可能で、Netfinity Director 管理者がリモート制御を使ってローカル・システムにアクセスしようとする、ローカル・システムには、リモート・ユーザーがリモート制御アクセスを試みていることを示すメッセージが表示されます。これで、アクセスを許可したり、却下したりできます。このサービスの使用について詳しくは、「Tivoli IT Director」セクションの「リモート制御」を参照してください。
13. 終了したら、「OK」をクリックして設定値を保管します。

-
14. インストール・ユーティリティーが、**config.sys** ファイルおよび **startup.cmd** ファイルに行わなければならない変更内容を表示します。インストール・ユーティリティーによってこれらのファイルに自動的に構成項目を組み込ませるようにしたい場合は、「了解」を選択します。そうではなく、**config.new** と **startup.new** に変更を保管する場合は、「取消」を選択します。

注: Netfinity Director の管理下のシステムが正しく実行するには、変更内容を **config.sys** と **startup.cmd** に組み込む必要があります。「取消」を選択した場合は、項目を手動で追加しなければなりません。

15. これでインストールは完了しました。「了解」をクリックして設定値を保管します。

Netfinity Director クライアント (OS/2 版) の不在インストール

Netfinity Director は、不在インストール、つまりインストール・プロセス中のさまざまなプロンプトに応答するためにその場に在席していなくても済むインストール方法をサポートしています。 応答ファイルは自動的に読み取られ、インストールは通常どおり進行します。

OS/2 の場合の不在インストールの応答ファイルは、OS/2 言語サブディレクトリーに入っています。たとえば、サンプルの英語応答ファイル、DirServ.rsp は、
x:¥win32¥install¥files¥NfD¥Agent¥OS2¥en¥ サブディレクトリーに入っています。ここで、**x:**は CD-ROM ドライブのドライブ名です。

応答ファイルのコメントは、1 桁目のセミコロンで始まります。項目はすべて変更可能です。応答ファイルには、各項目の使用法を詳細に説明するコメントが含まれています。

OS/2 クライアントの不在インストールを立ち上げるには、次のようにします。

1. サンプル応答ファイル (**DirAgent.rsp**) をコピーし、変更します。

2. ディレクトリーを **x:¥win32¥install¥files¥NfD¥Agent¥OS2 ¥** サブディレクトリーに変更します。この場合、**x:** は CD-ROM ドライブ のドライブ名です。
3. **setup.cmd** を実行して、インストール・ユーティリティーを始動します。
install.exe /R:filename (*filename* は完全修飾応答ファイル)

Netfinity Director クライアント (Netware 版) のインストール

注:

1. Netfinity Director クライアントは、Netfinity マネージャーを実行している NetWare システムにはインストールしないでください。Netfinity マネージャーを、**Autoexec.ref** からコメントアウトされる必要があります。
2. Netfinity Director クライアントは、NetWare 4.10、4.11および 5.0 でのみサポートされます。
3. Netfinity Director クライアントのクライアント・システムは、現在 Novell NetWare サーバーにログインしていなければなりません。

Netfinity Director クライアントを Novell NetWare システムにインストールするには、次のようにします。

1. *Netfinity Director with UM Services* CD-ROM をシステムの CD-ROM ドライブに挿入します。
2. ディレクトリーを **x:¥Netware** サブディレクトリーに変更します。この場合、**x:** は CD-ROM ドライブのドライブ名です。
3. **setup.bat** を実行します。
4. 宛先となる Novell サーバーの **sys volume** にマップされる該当ドライブを選択します。
5. クライアント・ファイルの宛先位置は **¥tivoliwg** ディレクトリーです。
6. これで、必要なファイルがコピーされ、次の行が **Autoexec.ncf** ファイルに追加されます。

```
;*****Tivoliwg IT Director Agent*****  
Search add sys:tivoliwg  
load twgipc  
;*****Tivoliwg IT Director Agent*****
```

7. 最終ウィンドウが表示され、そこに、このアプリケーションを使用する前にユーザーが実行しなければならない手動タスクがいくつかりストされます。
 - 次のように入力する。
Search add sys:tivoliwg
 - **twgipc** をロードすることにより、クライアントを始動します。
 - **twgipccf** をロードすることにより、Netfinity Director を構成します。
8. これでインストールが完了しました。このクライアントは、次回 Novell サーバーがブートしたときに自動的に実行されます。

Netfinity Director クライアント (SCO UnixWare 版) のインストール

詳しいインストール手順は、*Netfinity Director with UM Services* CD-ROMの ¥docs ディレクトリーの SCOAGENT.TXT ファイルに入っています。

Netfinity Director のアンインストール

注: UM Server Extensions をインストールしている場合は、Netfinity Director を除去する前に、まず最初にその拡張ツールをアンインストールしなければなりません。UM Server Extensions については、*UM Server Extensions ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

Netfinity Director を除去するには、次のようにします。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「アプリケーションの追加と削除」の順にクリックします。次に、「**Netfinity Director**」を選択します。

-
2. システムは、Netfinity Director をクローズしないと続行できないことを示すメッセージを表示します。
 3. システムは、構成データとデータベースの内容を削除したいかどうかを確認するメッセージを表示します。
アンインストール・プログラムが自動的に実行され、プロセスが終了するとプロンプトが表示されます。
 4. 直ちにコンピューターを再始動するか、後で再始動します。
「直ちにコンピューターを再起動します」を選択した場合、システムはシャットダウンし、即時に再始動します。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

【ア行】

「アカウント情報 (Account Information)」ウィンドウ 12
アンインストール、Netfinity Director の 21, 30
インストール、Netfinity Director の
クライアント 17
コンソール 16
インストール、Netware へのエージェント・ソフトウェアの 29
インストール・エージェント・ソフトウェア、OS/2 上の
不在インストール 28
エージェント・ソフトウェア
サポートされるクライアントへのインストール 25
Netwareへのインストール 29
OS/2 へのインストール 26

【カ行】

基本サービス、Netfinity Director 6
クライアント、NFD エージェントのインストール 25
クライアント・ファイルのインストール 17
コンソール・ファイルのインストール 16

【サ行】

サーバー・ファイル
インストール 5
基本サービス 6
サーバー・ライセンス・キー 10
サポートされるクライアントへの Netfinity
Director エージェントのインストール 25
システム・ヘルス・モニター 7

【タ行】

データベース、選択 13

【ナ行】

ネットワーク・ドライバー、構成 14
「ネットワーク・ドライバー構成 (Network
Driver Configuration)」ウィンドウ 14

【ハ行】

ハードウェア要件、Netfinity Director 管理サーバー 3
ハードウェア要件、Netfinity Director コンソール 3
ハードウェア要件、UM Services クライアント 3
パスワード、設定 9, 18

[ヤ行]

ユーザー ID の設定 9, 18

[ラ行]

ライセンス・キー、サーバー 10

D

「Director データベース構成 (Director Database Configuration)」ウィンドウ 13
DMI マッパー 9

I

installing agent software on OS/2
在席インストール 26

L

LANDesk Management Suite Integration 8

N

Netfinity Director 管理サーバー、サポートされるシステム 1
Netfinity Director 基本サービス 6
Netfinity Director コンソール、サポートされるシステム 1
Netfinity Director のインストール
クライアント・ファイル 17
コンソール・ファイル 16
サーバー 5
サーバー・ファイル 5

S

SNMP アクセスおよびトラップ転送 8

T

Tivoli Management Agent 8

U

UM Services クライアント、サポートされるシステム 2

W

Web ベースのリモート制御 7
Web ベース・アクセス 7
Workgroup/Enterprise Integration 20
Workgroup/Enterprise Integration の 20



部品番号: CT7AJJA

Printed in Japan

CT7AJJA

